

犬と猫にとって危険な食べ物リスト

種類	代表的な食べ物	含まれている危険な成分	起こりえる症状	補足
ネギ類	玉葱、長ネギ、ニラなど	アリルプロピルジスルファイド	赤血球破壊、胃腸障害、血尿、衰弱、心拍の増加	それぞれ毒性成分の含有量が違うため、危険度は異なります。
チョコレート (カカオ類)	カカオ含有量の高いビターチョコ	テオブロミン	不整脈、心拍の増加、口の渇き、過剰な活動、痙攣、発作、嘔吐など	ミルクチョコレートはカカオ含有量が低いいため、症状は出にくい。
レーズン、フドウ	レーズン、フドウを含む食べ物		嘔吐、下痢、腹痛、腎不全	症例は主に犬から報告されています。猫にはまだ未知数なところがあります。
アボカド	アボカドを含む食べ物	ペルジン	嘔吐、下痢を含む胃腸の炎症	ペルジンは果実だけではなく、葉、種子、樹皮にも含まれています。
マカダミアナッツ	マカダミアナッツを含む食べ物		無気力、嘔吐、異常な高熱、筋硬直、ふるえ、心拍の増加	犬のみ報告があがっています。
ガム	キシリトールを含む物	キシリトール	血糖値低下、嘔吐、歩行困難、内出血、肝不全	
ニンニク (ガーリックパウダー・オイルなど)		アリルプロピルジスルファイド	嘔吐、血尿、衰弱、心拍の増加	
アワビ、トリガイ、サザエ、トコブシ			毛の薄い耳に症状が現れやすく、腫れやかゆみが生じる。特に猫がなりやすい。	
スルメ			胃腸障害、元気が無くなるなど	スルメは胃で水分を含み膨張します。10倍以上に膨れる事もあるそうです。
生肉(豚)	豚肉(生)	寄生虫(トキソプラズマ)	体重減少、下痢、目の障害など	犬猫から人間まで感染する危険は同じですが、猫のみ体内でトキソプラズマが完全に成長します。感染しても症状のない猫もあり、若い猫ほど危険が高いとされています。
アルコール	お酒などアルコールを含む食べ物	アルコール	嘔吐、下痢、中枢神経系の抑制、ふるえ、昏睡アンドーシス(意識障害、血圧低下、痙攣、呼吸障害)など	

犬と猫にとって危険な食べ物リスト

種類	代表的な食べ物	含まれている危険な成分	起こりえる症状	補足
カフェイン	お茶、コーヒー、コーラなど カフェインを含む物	カフェイン	心臓や神経系への異常	
イーストのパン (生の場合)	イーストのパン (生)		食後の胃の膨張	生のイーストは アルコールを形成するので、アルコール中毒をもたらす危険もあります。
生卵 (白身部分)	卵白を含む食べ物	アビジン	下痢、皮膚炎、結膜炎	加熱すれば問題なし。
貝類、甲殻類	アサリ、ハマグリ、シジミ、 エビ、カニなど	酵素チアミナーゼ (アノイリナーゼ)	ビタミンB1(チアミン)欠乏症	ワラビなど一部の山菜のアクにもチアミナーゼが含まれています。加熱すれば問題なし。
青身魚	サバ、アジ、イワシなど	不飽和脂肪酸	黄色脂肪症	不飽和脂肪酸自体は悪い成分ではありません。食べすぎは注意です。
レバー	レバーを含む食べ物		大量に食べてしまった場合に ビタミンA過剰症	
ほうれん草	ホウレン草を含む食べ物	シュウ酸 (アクに含まれる成分)	結石	シュウ酸は(アクに含まれる成分)なので茹でたりすると減らすことができます。
海産類(のり、鰹節など)	海産類を含む食べ物	マグネシウム	結石	
ミネラルウォーター	ミネラルウォーター	マグネシウム、他のミネラル	結石	
ジャーキー	多量のジャーキー		再生不良性貧血、肝臓・脾臓・腎臓に障害	主食にして毎日食べ続けると症状が出やすくなります。
人間の食べ物	特に塩分	ナトリウム	心臓病、肝臓病、腎臓病、高血圧	栄養素の必要量が人間と大きく異なります。 体内に蓄積してしまう恐れがありますので注意を。

※あくまでも代表的なものであり、他にも危険な食べ物は存在します。

※可愛いワンちゃんネコちゃんの為にも動物病院さんの食事指導をしっかりと受けて、適切なドッグフードやキャットフードをあげましょう！！